

「聴覚障害児の日本語言語発達のために ～ALADJINのすすめ」へのコメント

JETROアジア経済研究所

主任研究員

森 壮也

コメンテーターの立場

- 日常的に手話を使用し、ろうコミュニティにも深く関わっているろう者
- 開発(経済)学, 手話(言語学), 障害学にコミットしている専門研究者
- 手話の音韻、形態、統語の研究では、日本手話のみならず、途上国を含めた複数の手話を研究
- 今回のプロジェクトには全く関わっておらず、2週間ほど前に急遽、コメンテーターの依頼を受けた立場

コメントの構成

1. プロジェクト全体について
2. ALADJINというテストについて
3. ALADJINを用いた研究成果について
4. まとめと議論

プロジェクト全体について

報告書を一読しての素朴な疑問

- ◆ アンケート自体は、標本数が集まりにくい中で実施された努力は評価
- ◆ 研究計画やプロトコール骨子では、「言語能力」となっているが、実際には報告書の表題にあるように「日本語言語」に限定された能力測定。いつの間にこうしたバイアス？
- ◆ 現在、ろう、難聴を問わず、成人の聴覚障害者と呼ばれている人たちが置かれている問題や状況が、プロジェクトでは、ほとんど考慮されていないように思われる。

素朴な疑問の二つはリンク

- ◆ 成人の聴覚障害者の多くは、残念ながら聴者の日本語話者と比して、不十分な日本語能力
- ◆ かといって、手話についても十分な言語力を獲得できているかということ、そうではない。
- ◆ ALADJINは、こうした状況に対して何か貢献できるのか？⇒コメンテーターの感想 否
- ◆ では、ALADJINは、なぜスクリーニングを一生懸命しようとしているのだろうか？

社会的にもフェアな研究か？

- ◆ 厚労科研，科研を問わず，我が国の科学研究ファンドは，過度に音声言語の発達やその補償の研究のために費やされている⇒研究のあり方として，フェアか？こうした倫理的問題は十分議論？
- ◆ ALADJINは，そうした自らの置かれている状況を客観的に見た上で作成されたテストだろうか？
- ◆ 手話言語についての評価やろうコミュニティによる支援を欠いたまま，ALADJINがスクリーニングに用いられることは，ろうコミュニティからも反発

カルフォルニア州におけるスクリーニング法案 (AB 2072) のバイアスに対するろう者の反発と反対運動 (2010)

◆ 音声言語と人工内耳のみを内容としたスクリーニング検査は、優生学的発想と批判

Mendoza Eugenics Stalled as California Legislator Considers Deaf to be Defective Americans

Dan Levin June 21st 2010



California Assemblyman Tony Mendoza has been stalled in his effort to pass legislation the deaf community feels will launch a eugenic campaign against them. Although originally scheduled for brief testimony and a vote last Wednesday, June 16, 2010, an informal survey of Health Committee members by Mendoza's office determined he did not have the votes. Other Health Committee members, stung by accusations of a slide back to California's dark history of Nazi-style eugenics, have declared their unwillingness to vote for the measure in its present form.

California eugenics was a system of eliminating unwanted bloodlines of those who were deemed "social misfits" in the twisted pseudoscience. Those targeted included such groups as the poor, prostitutes, Asians, whites with brown hair, those needing glasses, the deaf and many others. The radical early twentieth century social engineering plan became entrenched decades before Hitler came to power. Hitler emulated the California state statutes in his own Nazi eugenic crusade. Ultimately, some 66,000 Americans under 27 state laws were forcibly sterilized for a variety of eugenic reasons, with about a third to a half of the victims in California. That state's legislature has already issued a formal apology for targeting groups for extinction.

Mendoza's eugenic bill, known as AB2072, admittedly seems innocuous enough at first blush, critics argue. AB2072 calls for all newborns to be

screened for hearing problems; and if found to be deaf, their parents are to be given an "informative brochure" describing the options. The problem, complain large numbers of deaf people, is that the brochure is under the control of the well-financed cochlear implant industry, the audiology profession and various Alexander Graham Bell foundations--all of which are determined to see deaf culture, and its distinctive American Sign Language, disappear. Alexander Graham Bell was a pioneer of American eugenics. Cochlear implants are controversial medical devices that augment hearing and, in many ways, tend to do away with the need to communicate using American Sign Language.

For their part, the generation-to-generation deaf are passionately determined to keep their special identity which depends upon visual communication, including sign language. They have fought back with mass protests and letter writing campaigns, as well as STOP AB2072 Internet sites and t-shirts. The deaf community also brought in the historical expertise of Edwin Black, author of the award-winning eugenics book *War Against the Weak*, which chronicled the deep relationship between California eugenicists and the Third Reich.

Last week, Black lectured on eugenics in Sacramento to more than 500 members of the deaf community, including many who traveled from around the state to attend the event and thousands more who attended online. The presentation



出所: <http://www.thecuttingedgenews.com/index.php?article=12306> (左の記事)
<http://handeyes.wordpress.com/tag/ab-2072/> (上記写真)

聴覚補償と言語発達

- ◆ 全体としてのトーンは、聴力損失の早期発見とその後の聴覚補償をいかに行うかという従来のものとそう変わらない
- ◆ 聴覚補償は、障害学で言う「医療・個人モデル」に対応したもの。実際には、人間は社会的な存在という面も。社会で生きていくためのコミュニケーションの場、グループ・ディスカッションは完全に聴者にならない限り不可能。障害学で言う「社会モデル」の発想が欠如していないか。

ALADJINというテストについて

子供たちの言語そのものの発達 1

- ◆ すべての子供たちは、言語発達の権利を持つが、その言語は、音声言語に限定されない。それを音声言語発達に限定して整備⇒果たして妥当？
- ◆ 子供の手話言語の発達の芽を摘み、その発達環境よりも音声言語の発達環境を与えることの是非は、十分に議論されたか。
- ◆ 報告書でも繰り返し「日本言語発達のアセスメントツールとして、非常に有益」と書かれているが、「非常に」とまで言えるだろうか？

子供たちの言語そのものの発達 2

- ◆ テストの際には、「なるべくコミュニケーションモードの変更がないようにしましょう」とある。⇒聴覚に障害のある子供たちの多くは、バイモーダル・コミュニケーションを常態としていることが多いことを考えると不自然を強いる検査方法となる懸念。
- ◆ 音声提示による質問を強いる検査があるが、これらは、言語学で言うところの言語能力ではなく、音声言語の聴取や判定能力のテストなので、子供の言語能力という意味では、誤判断の可能性大。武居先生のパート、大事。

ALADJINを用いた 研究成果について

言語＝日本語？

- ◆ポイントの記述で「早期の療育開始は、より良い言語発達をもたらします」。ここでの早期の療育は、音声言語に限定されたもの。スクリーニングで偏った情報提供がされる危険性が依然、残る。
 - ① 早期の療育には、手話言語の可能性もあることについて言及が全くなし
 - ② 音声言語以外の発達環境が保障されているような家庭への配慮がなし(デフ・ファミリーの家庭は?)
 - ③ いつのまにか言語＝日本語という誘導がされている

視覚的方法に限定？

- ◆ 聴力に障害のある子供たちにとって、もっとも制限のない環境ではなく、バリアフルな環境を敢えて想定～視覚的方法を補助手段としてしか採用していない＝このことで、子供は自由に自らの言語能力を発達する機会を奪われているという認識の欠如
- ◆ 聴覚だけを使うことしか念頭にない聴者の親御さんたちに説明するというスタンスに引きずられすぎていないか

対象年齢の問題と社会的言語

- ◆ 対象年齢が4～15歳となっており、思春期の入り口で調査がストップ。実際に言語能力が社会性の発達や対人関係の発達で最も重要となってくるのは、この最後の時期
- ◆ 言語の発達が社会性に及ぼす影響を考えた時に、言語の位置づけが異なる時期が混在＋言語能力の限界のために子供たちが苦しむ時期がかなりの程度欠如した調査。

暗黙のうちにモノリンガル想定？

- ◆ 手話を使用する子供における日本語の能力の問題指摘は、モノリンガルという暗黙の前提？
- ◆ スペイン語を母語とする子供が英語の能力が劣っていた時に、通常はどうする？スペイン語を用いて英語を教えるはず。複数言語状況に、ろうの子供たちが置かれていることをもっと念頭においた評価と指導ガイドラインが必要。ALADJINには不足

まとめと議論

まとめ

- ◆ 日本語の言語能力の評価のためのテストであることは事実だが、「言語⇒日本語」のような誘導があることは残念
- ◆ これまで音声言語の指導や測定に多大な研究予算がすぎ込まれてきているので、それらの蓄積があることに安易によりかかっているか。そうした寄りかかりは、アンフェアなテストにつながる恐れ
- ◆ きこえない子供たちにとっての手話や視覚言語の重要さへの関心が不十分

議論

- ◆ スクリーニングは世界的に行われるようになってきているが、成人の聴者中心で作られたアセスメントの倫理性は今、世界的にも問われている。
- ◆ 本来、聞こえない子供たちに必要なのは本来の意味の言語発達であるはず。音声言語に限定された言語発達だけを測定・保障していて良いか。
- ◆ ALADJIN = Assessment of Language Development for Japanese childreNという略称の作り方も違和感があるが、そもそもこれは、Assessment of mainly Spoken Language Development for Japanese deaf childrenではないのか。